

新報

島根県教育庁
 隠岐教育事務所
 隠岐の島町湖町4
 電話2-9772

隠岐の島町立北小学校 サマー合宿

隠岐の島町教育委員会は、社会教育の重点施策に『地域の資源や人材を活かしたふるさと教育の推進』を掲げています。各公民館は、地域の教育資源を活用し、学校行事に関わることにより、「隠岐を知り、ふるさとを愛する子供たちを育成する」「地域の人々の連帯感を深め、人づくり・地域づくりにつなげていく」ことをねらいとし、様々な活動をコーディネートしています。その中で、布施公民館は北小学校が七月に実施した「サマー合宿」を支援しました。

この講師やボランティアの依頼、当日の児童による体験活動の支援を公民館として行いました。

合宿一日目は「シーカヤック体験」もらい湯(各家庭を訪問、お風呂をいただく)、「夜まわり(火の用心)」、二日目は「船に乗って日の出遊覧」「乳房杉見学から山登り(写真)」等の体験活動を行いました。この合宿により、児童は地域の方との交流や伝統を学ぶことを通して地域理解を深めました。

布施地区の方々からは、今後このような活動に積極的に参加していきたいという声もたくさん聞かれました。

【地域の方の感想】

このような活動を通して、ふるさとを理解することはとても良いことです。一人でも多くの子供たちが隠岐に「居(お)る」(※隠岐の方言でいるをおるといふ)ことにつながればいいと思います。

【教員の感想】

学校のねらいが児童の振り返りや当日の様子を見て達成できたと思います。このような活動は学校教育だけでは難しく、公民館をはじめ地域の方の協力なくしてはできないことだと改めて思いました。感謝しています。

この活動を公民館が中心に実施したことにより、地域の豊かな教育資源を有効に活用することができました。そして参加した子供たちや地域の方々のどちらも充実した「ふるさと教育」となりました。今後も「学びつながら場」の充実を図り、「一人一人が笑顔で暮らせるしまね」を目指していきたいと思



キャリア教育交流事業 ～立命館大学 ×隠岐の島町～

立命館大学の学生と隠岐の島町内の学校とのキャリア教育交流事業を実施しま

した。隠岐の島町の子供たちにとつて、大学生と交流する機会は少なく、本事業によって新たな自分の可能性を見つけたら、将来の進路選択の参考にしたり、ひいては学習・生活意欲の向上につながる

九月二十日に十二名の学生と教授が来島し、それぞれが各小中学校に行き、児童生徒と交流をしました。学校によつて活動内容は異なりますが、自己紹介やアイスブレイク、体育、部活と様々な形で大学生との関わりがありました。熱心に話を聞いたり嬉しそうに話したり、楽しく活動する姿がとてもいきいきとして印象的でした。

各校お忙しい中、交流事業のために準備等をしていただきありがとうございます。今後このような機会をとらえ、より充実した事業内容となるように企画していきたいと思

【大学生の感想】

同級生や異年齢とのつながりがある、学級や学校の団結力を感じました。隠岐の子供に負けられないように私も頑張りたいと思いました。

(派遣社会教育主事 古木)

「教員あるある」

「じっくり考えたい」のに、「はい、グループで話し合い」って。「もつ」といろいろな問題を解きたい」のに「はい、みんな黒板」って。「授業がつまらない」のに「眠たそうだぞ、またゲームか」って。「たった三分間でまとめられない」のに、「はい、タイム」って。

私の反省も含めて、教員あるあるです。どうも教員あるあるとは、子供の興味や意欲を奪う時に起こるようです。子供一人一人の実態(思いや考え)をしつかりと把握することで、初めて効果的な指示や声かけが可能となり、素敵な授業が成立することを知

日頃からじっくりと子供と関わっていると、その言動の裏側に、ちゃんと本人なりの理由が存在します。当たり前ですが、そのことを日頃から把握し、受け入れることのできる先生が、よくわかる授業を展開できたり、子供との心地良い距離感や保護者との信頼関係を築けたりできる

忙しい中、ついつい私たち

教員は、子供の思いや感情を表面的に捉えがちになり、中にはめてしまします。それは、強引な修正や余計な支援にもつながります。思い込みの取組や支援は、子供のやる気や自立を妨げる、本当に怖い行為かも知れません。

子供の思いをしつかりと受け止め、子供のために、子供自らが納得して進めるような関わりができればと思っています。そのためにも、教員自身の子供の捉えについて、授業についての再確認が必要かもしれません。

さて、本教委では以下の二つを柱とした教員の指導力向上に係る事業を展開しております。どうぞ積極的にご参加ください。

① 『子供を中心にした授業や授業研究の在り方』

授業力や指導力の基盤となる「子供を見取る力」の向上を目指します。

講師 慶應義塾大学 教授 藤本 和久

② 『授業作り研究』

ICT活用の意義や必要性を理解し、「授業を組み立てる力」の向上を目指します。

講師 東京学芸大学 教授 川崎 誠司
 (派遣指導主事 永島)